令和２年６月第３回定例会一般質問（代表者質問）事項【６／１５】

１　川畑　孝治　議員（政友会）

（１）妊婦さん応援給付金について

・令和２年４月２７日時点で出産していない妊婦の方に特別給付金を支給し、それぞれの状況に合わせて活用していただいてはどうか。

（２）新型コロナウイルス感染症への対応について

・利用者が大幅に減少している鉄道やバス、タクシー等の公共交通機関への支援策は。

・民生委員児童委員、福祉委員の活動状況と今後それぞれの地区でサロン等の福祉活動を再開するにあたっての基準は。

・オンライン学習の環境について、坂井市の現状と課題は。

・小中学校における修学旅行は、その教育的意義や児童生徒への配慮を考慮し、中止ではなく延期扱いにすべきと考えるが見解は。

２　南川　直人　議員（志政会）

（１）新型コロナウイルスが及ぼす市への影響をどう克服するのか

・令和２年度の予算執行率はどの程度と考えているのか。また、イベント系事業の達成見込みや、大型事業の延期の可能性はないか。

・財政支援について、国、県への要望はどのように行っていくのか。市内企業の景況感は夏以降も厳しさを増すと考えられるが、商工会などと連携し中小企業や個人事業主をどのように支援していくのか。また、市としての窓口をどことして、どのように対応するのか。

・自粛の為自宅にいた高齢者に、運動とコミュニケーションを、三密を避けたやり方でどう再開するのか。健康都市宣言をしている本市として、少人数での出前運動講座など、今後ウイルスに感染しない自然免疫を高めるため、市民の健康増進に寄与する事業が必要ではないか。

・災害が発生した場合、避難所での三密を防ぐ対策をどう考えるか。県が指針を示しているが、市として対応できるか。また、災害対策室に感染症に対する対処法も取り入れておくべきではないか。

３　渡辺　竜彦　議員（志政会）

（１）新型コロナウイルスが及ぼす市への影響をどう克服するのか

・新型コロナウイルスの第二波、第三波の襲来に備えてのオンライン授業への早急な環境整備が必要と考えるが、今後の環境整備の見通しと、対応についてどのように行っていくのか。

・長期休校によって、一番懸念されること（体力・学力・児童生徒とのコミュニケーション等）、それらへの対応はどのように行っていくのか。

・市内小中学校、幼保園への新型コロナウイルスの感染防止に向けた具体的な取り組みはどのように行っていくのか。

・今年度新型コロナウイルスの影響により、様々な行事（運動会・体育祭・文化祭・

修学旅行・中体連）などの中止が予想をされる。そういったなか、最終学年を迎える小学６年生・中学３年生の児童・生徒たちにとって、それに代わる新たな想い出づくりの行事は、どう行っていくのか。

４　畑野　麻美子　議員（日本共産党議員団）

（１）学校において、感染者が出た場合の対応策は準備されているか。ＰＣＲ検査は必要不可欠である

・学校において、第二波の感染者が出た場合の対応策は準備されているか。ＰＣＲ検査は必要不可欠である。

（２）学校再開にあたって、子どもと教職員の命と健康を守ること

・学校再開にあたって、子どもの実態から出発する柔軟な教育が求められる。子どもを直接知っている学校現場の創意工夫を保障するために、教育委員会が果たす役割は大きい。どう取り組むのか。

・教職員の負担軽減のために、清掃など外部から臨時の対応や配置が必要と考える。

（３）国・県の支援制度を補完し、小さな自営業者を守ること

・国の持続化給付金、県の自粛協力金には、それぞれ、条件が設定されている。この条件を満たさない市民、事業者に対して、支援を行うことは、坂井市としての重要な役割であると考える。国・県の支援制度を補完し、小さな自営業者を守ること。

（４）三密を避ける避難所体制の充実を

・災害時の避難所は公的機関だけでなく、民間事業所と提携し避難所として協力していくこと。

・ダンボールベットのつくり方などの講習会を行い、災害に備えること。

（５）住民健診や特定検診など集団検診についての取り組みについて

・集団検診の取り組みについて、適切な感染防止策に努め、できる範囲での計画を立てることや個別検診をすすめ、身体の状態をしらべ、早期発見、早期治療をすべき。（必要な受診を控えることは健康悪化のリスクが高まる）

（６）お持ち帰り（テイクアウト）の容器に紙パック使用には助成を

・お持ち帰りの容器が紙パックには助成し、プラごみ削減に積極的に取り組むこと。（紙パックはプラパックより高価である）

（７）高齢者フレイル予防の対策について

・フレイル（虚弱）とは、健常から要介護へ移行する中間の段階と言われている。フレイルの原因となる例としては、動くことが少なくなる、社会的に交流する機会が減るなどの要因がある。まさに外出自粛でのフレイルへの影響は大きい。高齢者のフレイル予防の支援策をどのように考えているか。具体的な案を求める。

５　田中　千賀子　議員（政和会）

（１）坂井市における新型コロナウイルス感染症対策について

・新型コロナウイルス感染拡大による第二次総合計画への影響をどう考えているのか。

・新型コロナウイルス感染拡大による中期財政計画への影響をどう考えているのか。

・第２波に備えた対策

① 感染拡大レベルによる対応策

（学校）

新しい生活様式を踏まえた行動基準を考えているのか。（地域の感染レベル、身体的距離の確保、感染リスクの高い教科活動、部活動などの行動基準）

（学校、保育園）

感染した生徒、児童、園児、濃厚接触者が出た場合の対策をどう考えているのか。

② マスクの着用時における熱中症対策

○学校、保育園における熱中症対策をどう考えているのか。

○環境省が毎日発表している暑さ指数を毎日チェックできるようにするといいのではないか。

③ 学校、保育園を含めた公共施設におけるマスク、消毒液、体温計などの備蓄と追加対策

○備蓄の現状を今後の計画はどうなっているのか。（算出根拠も含めて説明を求める）

・財政調整基金を活用した市民応援策

① 上下水道料金の基本料金を３カ月減額してはどうか。

② ３歳児～５歳児の園児の給食費を登園自粛を要請した２カ月について無料化できないか。

③ 学校給食への地場産農産物や水産物の利用拡大をしてはどうか。

④ 小規模事業者に対し、給付策を考えてはどうか。

・自粛期間における生活習慣の変化による問題点は

① 期間中のＤＶ、虐待の推移と第２波に備えた対応策は。

６　近藤　哲行　議員（政立会）

（１）コロナに感染した家族について

・家族がありお子さんもいる家族の中で、ご主人が感染者になった場合。当然家族も濃厚接触者となり隔離されることとなる。その家庭は近くに身寄りがない場合、奥さんが陽性になった場合には、残された子どもさんは市としてどのような対策をたてているのか、またお子さんの中に障がい者の方がおられた場合、この二つをおたずねしたい。

（２）非常事態時の場合に市の条例

・緊急事態に市の条例を作れないのか。

７　永井　純一　議員（公明党）

（１）コロナ禍を踏まえた防災・減災対策について

・日本列島はこれから本格的な梅雨入り、台風シーズンを迎えるとともに、地震も多発しており、巨大地震など災害発生に備えた対策は、喫緊の課題である。そこで次のことについて伺う。

① 避難体制について、公的施設の確保の他、ホテルや旅館、親戚のお家などの活用も含めた分散避難、避難訓練など。

② 避難所について、避難者の健康管理と感染予防のための衛生環境、備蓄品、避難所運営など。

③ 避難所の増加に伴う、運営する人の確保やおそらくボランティアの方も簡単に来ていただけない状況など。

（２）コロナ禍における小中学校の取り組みについて

・学校での新しい生活様式にどのように臨まれるのか、子どもたち、保護者、市民の皆さんへ子どもたちを預かっている立場として、教育長より安心のメッセージをお願いする。